

『道きれい そんな所は 人きれい』

～平成28年度「道路ふれあい月間」推進標語 入選作品決定のお知らせ～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路を利用している国民の方々に道路とふれあい、道路の役割や大切さを再認識していただき、道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図るとともに、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的とした運動を実施しています。

期間：8月1日～8月31日

主催：国土交通省

後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛：95団体(教育機関、ボランティア団体、報道機関等)

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない基本的な施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過されがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の活動の一環として、改めて道路の役割・重要性について考えて頂くために、昭和41年より毎年、広く一般から「道路ふれあい月間」推進標語を募集しております。51回目を迎える本年は、全国各地から4,987作品もの応募がありました。

応募作品について、三好礼子氏(エッセイスト、元国際ラリリスト)、やすみりえ氏(川柳作家、文化庁審議会分科会委員)、吉岡耀子氏(交通・環境ジャーナリスト)の3名の審査員による審査を行い、「小学生の部」[中学生の部][一般の部]の部門毎に、最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品が決定しました。

決定された優秀作品は、地方整備局や地方公共団体が

- ・地域住民等と強調した道路清掃、植樹帯の整備、不法占用物件の是正
- ・広報誌・マスコミを活用したPR活動
- ・パネル展示会や建設機械試乗会の開催

などといった道路の正しい利用や愛護活動を啓発する際のキャッチコピーとして使用^(※)させていただきます。

(※)ポスター・チラシへの掲示・・・横断幕・電光掲示板・タスキへの掲示 等

◆平成28年度の入選者・作品◆ ※発表内容は応募時点

最優秀賞(3作品)

【小学生の部】「友だちと げんきいっぱい 歩こうよ」

小林悠希さん(栃木県 那須塩原市立塩原小学校)

(三好委員)文字の向こうから飛び出してきそうな勢いと笑顔を感じる作品ですね。優秀賞と最優秀賞を拝借して一文。「安全に歩けるたからもの道を」「おたがいに譲る心で」「歩けば心も動き出し」「友達と元気いっぱいに歩けるね」。なんとも幸せな生活が見えてきました。私もこの中に混じって歩きたいです。

(やすみ委員)毎日の通学路をイメージして作った標語だと受け取れます。明るくかわいい雰囲気伝わってきて、こちらまで笑顔にさせてくれますね。「歩こうよ」という呼びかけのような言葉選びも、メッセージが投げかけられてくるようでいいポイントになっていると感じました。

(吉岡委員)子供にとって道を歩くことは生活であり、遊びであり、親、兄弟、そして友達とのつながりを深める大事な行為に違いありません。最優秀作は、そんな元気いっぱいの子供心が、弾むように表されています。他の優秀作品にもこのトーンが共通していて、だからこそ、大人はいい道、安全な道を守ってあげたいと願います。

【中学生の部】「道きれい そんな所は 人きれい」

高橋昂太郎さん(秋田県 湯沢市立皆瀬中学校)

(三好委員)一瞬、見た人の心をドキッとさせるものの、プツと笑わせてしまう比喩がとても効いています。今まであまりなかった「きれい」の使い方が印象的で、きつと話題になりますね。クリーンアップに精を出している方々の強い味方にもなりそうです。優秀賞は、どれも未来や夢や温かさを感じる作品でした。

(やすみ委員)すっきりとしたスタイルの作品で、一度目にしただけでもしっかりと印象に残りそうです。道の美化が行き届いている地域の、そこに暮らす人々への敬意や感謝の気持ちが見えてきました。道と人の姿を重ねることにより、共感のできる具体的な表現になっていますね。

(吉岡委員)道には人の影が映し出され、ぬくもりがある、そんな感覚をとらえたこの標語には中学生らしい瑞々しさが表されています。小学生の「歩く道」に対して、「住む人の道」というような成長が感じられます。優秀作品の「道渡り・・・」にもその優しさが見られます。

【一般の部】「ありがとう 生きる力を くれる道」

會田誠一さん(神奈川県 大和市)

(三好委員)「生きる力をくれる」のフレーズに、ほろり。明日何が起こるか分からないのが人生ですが、ほんとうに道が与えてくれる力は膨大ですよ。直球で多くの人の心に響きそうです。他の作品も、さすが長い間道と対話してきた一般作品。跳ねながら未来へのスタート!というイメージが感じられ、どれも素敵でした。

(やすみ委員)力強さと思いきや、このふたつが同時に感じられる標語だと思います。大小さまざまな道を思い浮かべることができそうですね。人それぞれの道の情景が広がる作品ではないでしょうか。

(吉岡委員)ストレートに道の力が謳われた作品で、文字どおり、前へと進む生命のほとぼりが感じられます。「ありがとう」の言葉によって、感謝だけでなく人生へのエールも伝播して来よう。他のふたつの優秀作品もストーリーとリズムが生きています。

◎最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった

「道きれい そんな所は 人きれい」を今年度の代表標語とします。

優秀賞(6作品)

【小学生の部】「あんぜんに あるけるみちは たからもの」

吉岐心音さん(宮城県 宮崎市立恒久小学校)

「この道を 歩けば心も 歩き出す」

櫻田歩維さん(神奈川県 横浜市立都岡小学校)

【中学生の部】「道渡り ほんの一礼 あたたまる」

加茂三幸さん(佐賀県 伊万里市立南波多中学校)

「ぴかぴかの 道路にひびく 笑い声」

樹下あいさん(佐賀県 佐賀龍谷学園龍谷中学校)

【一般の部】「この道で はじまる私の 物語」

吉野信幸さん(埼玉県 川越市)

「あいさつも お歌も靴も 跳ねる道」

川村雅恵さん(神奈川県 横浜市)

◆審査委員◆【総合選評】



三好礼子 委員

な気持ちで選んだつもりですが、どれもつながっているように感じられ、胸が熱くなることもしばしば。日常の大切さ、当たり前にあることの有り難さ。多くの人の作品にあったように、笑顔と言葉を掛け合って、みんなでいい日本を作っていきたいですね。

(三好委員)3部門とも、完成されたものが多かったように思います。よみ易く、やさしい気持ちになれて、どれもに未来が感じられました。大笑いが止まらないのも大好きですが、ちょっと捻りのある珍しいものが最優秀賞になりましたね。ゴミ拾いがライフワークの私には嬉しい作品でした。さて、締め切り後に熊本地震が起き、誰もが道路整備の重要性を再確認させられることとなりました。審査時はフラット



やすみりえ 委員

なのだと思います。みなさんの作品から、道路を色々な角度から見つめることが出来ました。

(やすみ委員)最終選考まで残った作品は、全体的に言葉並びの良さに加えてリズムの良さを楽しめるものが多かったようにお見受けしました。多くの人の心へ響くようにと考えられた結果



吉岡耀子 委員

が生き始め、街の景色が今までとは違って見えてきたのではないのでしょうか。標語が人々の目に触れて、その波紋が広がりますように。

(吉岡委員)道という、あって当たり前と思われている存在なのだろうが、それに対してよくこれだけの言葉(感性)が、と思うほど多数の作品が寄せられました。応募がきっかけとなり身近な「道」